

* 策定に至る経緯

文部科学省から「個別施設計画（長寿命化計画）」の策定が求められている。

令和3年度以降の国の交付金事業は、個別施設計画の策定が申請の要件となっている。

* 必須項目

文部科学省から計画に盛り込むべき項目が示されており、改修の具体的な実施時期以外は基本方針で網羅している。具体的な実施時期は、公共施設全体で（仮称）あさかFMアクションプランで示すこととなっており、その中の学校施設の部分を合わせることで、文部科学省が要求する計画が完成となる。

第1章 背景・目的等

多くの学校施設が改修時期を迎えようとしている中で、長期的にコストを抑制しながら、持続的な教育環境を確保することを目的に、基本方針を策定します。

第2章 学校施設の実態

学校施設の現状を把握し、構造躯体の健全性を元に建物の棟ごとに長寿命化の可否を判定します。また、構造躯体以外の部分の老朽化の調査を行い、健全度を評価します。

* 評価／判定方法 構造躯体…耐震基準、コンクリート圧縮強度、築年数による長寿命化の可否判断
構造躯体以外…専門家による診断、経過年数等による健全度評価

第3章 学校施設の目指すべき姿と課題

学校施設の目指すべき姿を定め、実現するための課題を整理します。

第4章 学校施設整備の基本的な方針等

上位計画や課題を踏まえ、施設を整備する方針を示します。

さらに、長寿命化に向けて、具体的な目標使用年数と改修周期のモデルを示します。

第5章 学校施設の長寿命化に向けた改修計画


工事を想定して建物の棟をグループ化した上で、第2章の長寿命化の可否の判断を踏まえ、一定条件の下での改修時期を示します（表5-1）。

また、健全度評価と築年数を踏まえ、優先順位を設定します（表5-3）。

さらに、表5-1を元に長寿命化をした場合のコスト試算をし、財政面での見通しを示します。

第6章 長寿命化に向けた継続的運用方針

実際に長寿命化を推進していくための、運用面での留意事項を示します。



朝霞市 学校施設 長寿命化 基本方針 (案)

朝霞市教育委員会

注)「学校名」「所在地」については、朝霞(市)を省略して記載している。

朝霞市学校施設長寿命化基本方針（案）

目 次

第1章 背景・目的等	1
1. 背景と目的	1
2. 基本方針の位置付け	2
3. 基本方針の構成と内容	3
4. 基本方針の期間	4
5. 対象施設	5
第2章 学校施設の実態	7
1. 学校施設の現状	7
(1) 学校施設の整備状況	7
(2) 児童生徒数及び学級数の推移	9
(3) 施設関連経費の把握	13
2. 学校施設の老朽化状況の実態	14
(1) 構造躯体の健全性の把握	15
(2) 構造躯体以外の劣化状況の評価	18
(3) 学校施設の老朽化状況の総評	37
第3章 学校施設の目指すべき姿と課題	40
1. 学校施設の目指すべき姿	40
2. 学校施設の課題	41
第4章 学校施設整備の基本的な方針等	43
1. 学校施設整備の方針・整備水準	43
(1) 改修等の基本方針	43
(2) 学校施設の規模・配置計画等の方針	44
2. 学校施設の長寿命化	45
(1) 学校施設の長寿命化の方針	45
(2) 目標使用年数、改修周期の設定	45
第5章 学校施設の長寿命化に向けた改修計画	47
1. 長寿命化を見据えた学校施設の改修計画	47
(1) 長寿命化改修等の設定条件	47
(2) 施設整備の考え方	53
2. 改修等の優先順位	54
3. 長寿命化によるコスト試算の検証と長寿命化の効果	55
(1) 長寿命化のコストの見通し	55
(2) コスト試算の総評	57
(3) 長寿命化の効果	57
第6章 長寿命化に向けた継続的運用方針	59
1. 施設情報の管理と活用	59
2. 推進体制等の整備	59
3. フォローアップ	59

1. 背景と目的

朝霞市の小中学校の施設（以下「学校施設」という。）の多くは、昭和 40(1965)年代後半から 50(1975)年代の児童生徒が急増した時期に建設されました。小中学校全 15 校のうち築 40 年以上の学校施設が 5 割を占め、経年による老朽化が進んでいます。これらは、今後一斉に改築時期を迎えるため、財政面に大きな負担がかかることが考えられ、学校施設の老朽化対策が重要な課題となっています。

一方で、学校施設は児童生徒が学び生活する場や、地域住民の生涯学習などの活動の場としてだけでなく、災害時の避難所としての役割も果たすなど、多様化するニーズへの対応もまた今後の課題となっています。

本市ではこれまで、児童生徒や地域住民が安心して学校施設を使用できるよう、耐震補強工事や非構造部材の耐震対策を行い、学校施設の安全対策を進めてきました。また、児童生徒が快適に学校生活を送れるよう、普通教室へのエアコン設置やトイレ改修を行い、平成 30(2018)年度からは避難所となる小中学校の屋内運動場にエアコンと非常用発電設備の設置を行い、学校施設の整備充実に努めています。

今後は、改築周期の延長を視野に、学校施設の長寿命化を図って施設整備のコストを総合的に抑制しつつ、安全・安心で持続的な教育環境を確保していくことを目的に、「朝霞市学校施設長寿命化基本方針」（以下「基本方針」という。）を策定します。

2. 基本方針の位置付け

国は、平成25年11月に「インフラ長寿命化基本計画」を策定し、今後急速に老朽化することが予想されるインフラを対象に、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図る方向性を示しました。

これを踏まえ、文部科学省は、平成27年3月に所管施設等の維持管理を着実に推進するための中長期的な取組の方向性について、「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定しました。

また、各地方公共団体においても、インフラ長寿命化基本計画に基づき、インフラの維持管理・更新等を着実に推進するための中長期的な取組を明らかにする計画として、「インフラ長寿命化計画（公共施設等総合管理計画）」を策定するとともに、個別施設ごとの具体的な対応方針を定める計画として、長寿命化計画（個別施設計画）を策定することが求められています。

本市では、平成28年3月に、公共施設の維持管理に関する基本的な考え方を示した「朝霞市公共施設等総合管理計画」（以下「総合管理計画」という。）を策定しました。今後は、各施設の個別具体的な維持管理に関する計画を、「（仮称）あさかFMアクションプラン」（以下「アクションプラン」という。）として取りまとめる予定です。

教育委員会では、学校施設の長寿命化を見据えた整備に関する基本的な考え方を示す「朝霞市学校施設長寿命化基本方針」を策定する一方、改修・改築（以下「改修等」という。）の具体的な実施時期は、社会状況や財政運営状況等を踏まえた上で、公共施設全体で検討を重ね、アクションプランで示す予定です。基本方針及びアクションプランの内容を合せて、「朝霞市学校施設長寿命化計画」（以下「長寿命化計画」という。）と位置付け、長寿命化計画に基づく施設整備に取り組みます。

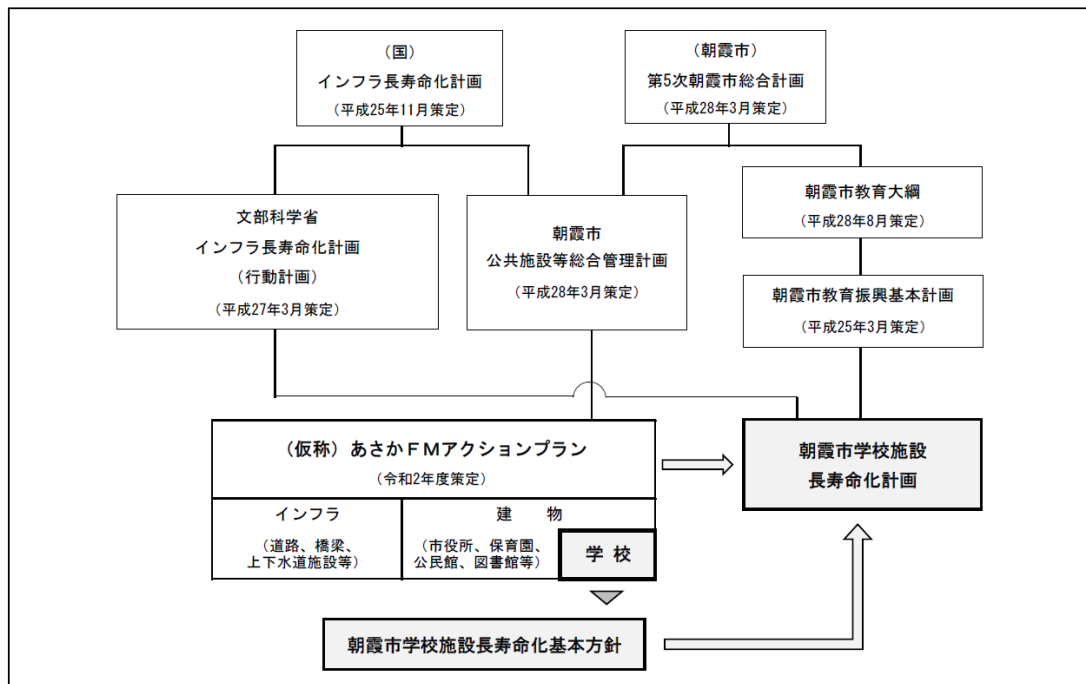


図 1-1 基本方針の位置付け

3. 基本方針の構成と内容

基本方針では、文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」及び同解説書^{※1}に基づき、学校施設の構造躯体の強度及び構造躯体以外の劣化状況を調査し、各学校の改修等の優先順位や長寿命化を見据えた改修計画の検討及びコスト試算を行います。また、安全・安心で快適な教育環境の整備充実を図り、地域とともにある学校づくりを進めるため、改修・改築時にどのような施設整備を行うか検討します。

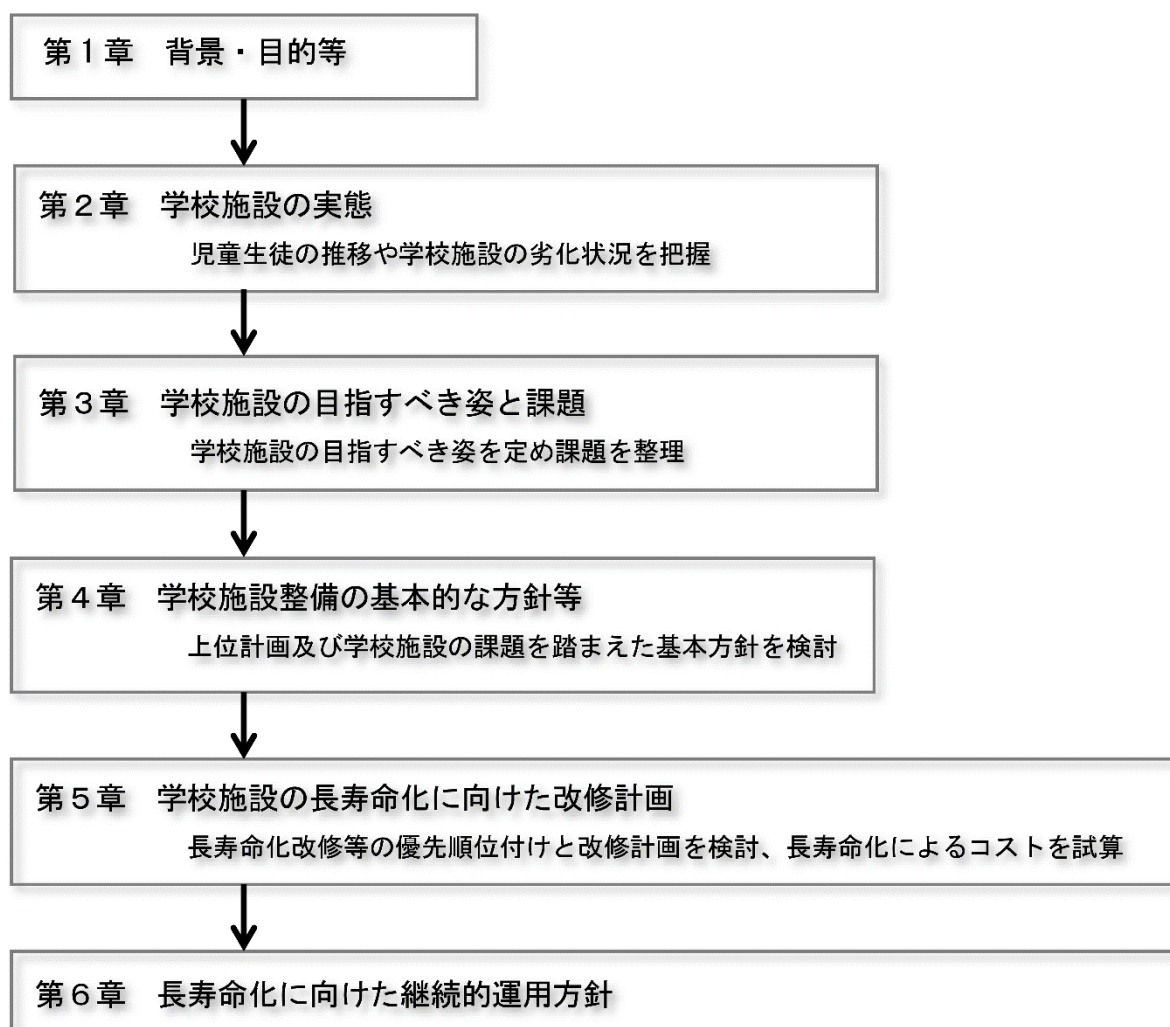


図 1-2 基本方針の構成

※1 「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」平成27年4月、文部科学省
「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」平成29年3月、文部科学省

4. 基本方針の期間

基本方針の期間は、総合管理計画の計画期間に合わせ令和47(2065)年度までとし、その間の社会状況の変化等を受けて見直しを行うため全5期の計画とします。

第1期は第5次朝霞市総合計画後期基本計画と整合性を図るため令和3(2021)年度から令和7(2025)年度までの5年間とし、第2～5期は各10年間とします。

また、第2期以降の各期間の中間年度に、改修等の進捗状況により見直しを行うことを基本とします。

基本方針の期間

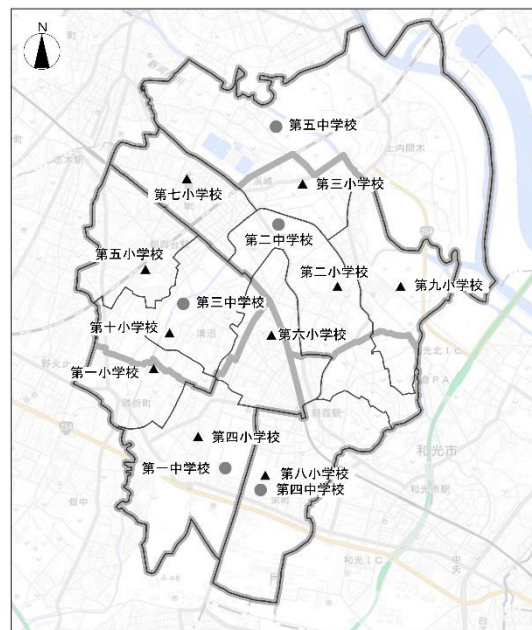
第1期 (5年間)	令和3(2021)年度 ~ 令和7(2025)年度
第2期 (10年間)	令和8(2026)年度 ~ 令和17(2035)年度
第3期 (10年間)	令和18(2036)年度 ~ 令和27(2045)年度
第4期 (10年間)	令和28(2046)年度 ~ 令和37(2055)年度
第5期 (10年間)	令和38(2056)年度 ~ 令和47(2065)年度

5. 対象施設

基本方針で対象とする学校施設は、校舎、屋内運動場（体育館、武道場）及びプール施設とします。また、第四小学校及び第五小学校の自校給食施設（給食調理設備を除く）並びに第四小学校、第五小学校及び第十小学校の校舎内にある放課後児童クラブは、校舎と一体の改修等が想定されるため、基本方針の対象施設とします。なお、屋外トイレは対象外としますが、古い和式便器のみの屋外トイレは、バリアフリー化や避難所としての施設整備の観点から、校舎や体育館の改修等に合わせて整備の検討を行います。

学校名	所在地	対象施設	備考	
小学校	第一小学校	膝折町4-11-7	校舎・体育館・プール	
	第二小学校	岡3-16-13	校舎・体育館・プール	
	第三小学校	大字浜崎230	校舎・体育館・プール	
	第四小学校	幸町1-6-9	校舎・体育館・プール 自校給食施設・放課後児童クラブ	*プールは体育館屋上 *自校給食施設及び放課後児童クラブは校舎内
	第五小学校	泉水3-16-1	校舎・体育館・プール 自校給食施設・放課後児童クラブ	*プールは体育館屋上 *自校給食施設及び放課後児童クラブは校舎内
	第六小学校	本町1-25-1	校舎・体育館・プール	
	第七小学校	北原2-6-1	校舎・体育館・プール	
	第八小学校	栄町5-1-41	校舎・体育館・プール	*自校給食施設建設中(令和2年度中完成予定)
	第九小学校	大字台295	校舎・体育館・プール	
	第十小学校	大字溝沼828-1	校舎・体育館・プール・放課後児童クラブ	*放課後児童クラブは校舎内
中学校	第一中学校	大字膝折2-31	校舎・体育館・武道場・プール	*プールは校舎屋上
	第二中学校	大字岡199	校舎・体育館・武道場・プール	
	第三中学校	大字溝沼1043-1	校舎・体育館・武道場・プール	
	第四中学校	栄町5-1-60	校舎・体育館・プール	
	第五中学校	大字宮戸1580	校舎・体育館・プール	

表 1-1 対象施設一覧



資料 朝霞市小・中学校通学区区域図を基に作成

凡例) ▲ 小学校 □ 小学校区
● 中学校 ■ 中学校区

図 1-3 小・中学校配置図



本章では、学校施設の整備状況や児童生徒数等の推移、また、本市の財政状況の傾向や学校施設関連経費の推移など、学校施設を取り巻く現状について把握するとともに、老朽化状況の実態を明らかにします。

1. 学校施設の現状

(1) 学校施設の整備状況

本市の学校施設は半数が築40年以上経過し、経年による老朽化が進んでいる状況です。昭和56年以前の旧耐震基準^{※2}による学校施設は、平成11～20年度に耐震化が完了していますが、屋上や外壁の改修や上下水道配管・設備機器の更新等は、不具合の改修など部分的な対応に留まっています。

第一小学校、第二小学校、第三小学校及び第二中学校の4校では築50年が経過した校舎もあり、経年により老朽化した学校施設への対応が重要な課題となっています。

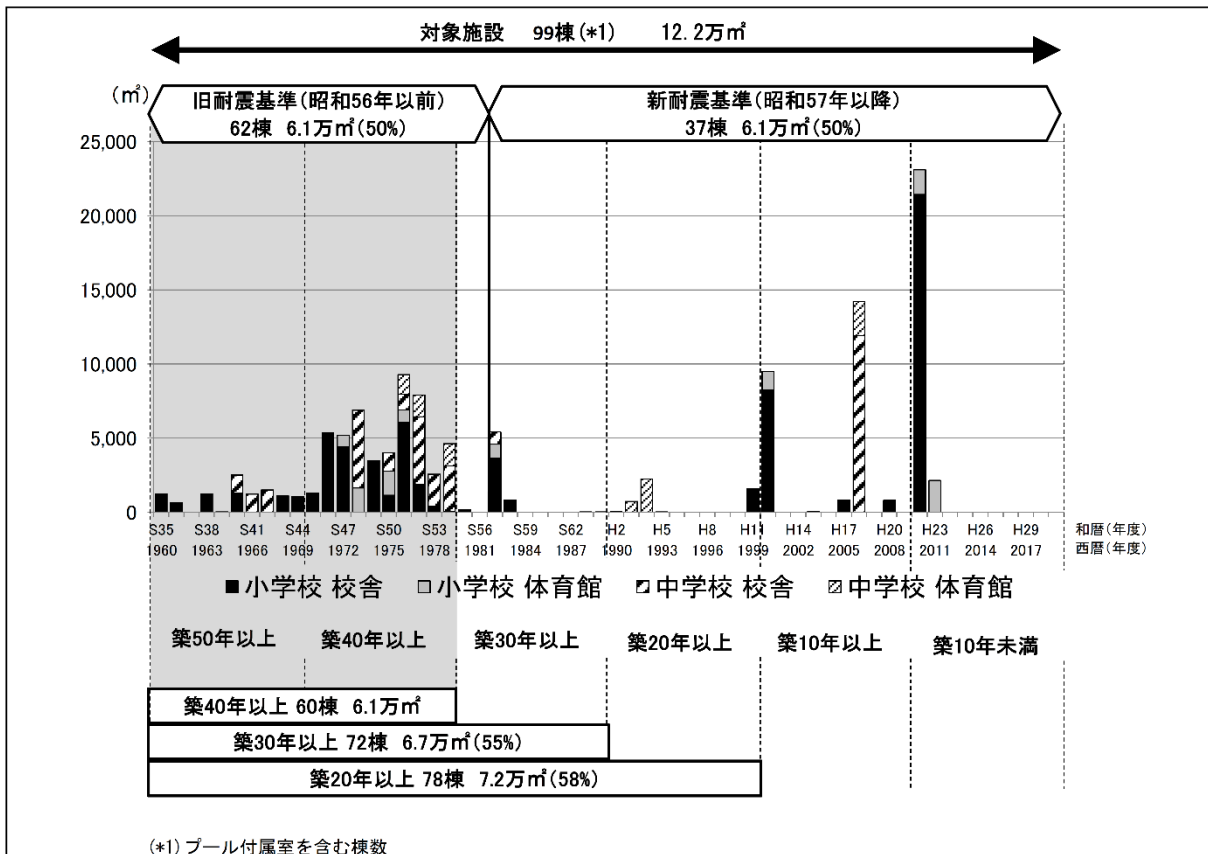


図 2-1 対象施設の築年別整備状況

※2 旧耐震基準とは、建築物の設計において適用される構造基準で、昭和56年(1981年)5月31日までの建築確認において適用されていた基準のこと。また、その翌日以降に適用されている基準を「新耐震基準」という。図2-1では、旧耐震基準を昭和56年以前、新耐震基準を昭和57年以降と表記している。

学校名	施設名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年		築年数		
					和暦	西暦			
小学校	第一小学校	校舎	RC	4(一部3)	6,833	S36	1961	58	
		体育館	S	2	805	S47	1972	47	
		プール施設	RC	1	42	S39	1964	55	
	第二小学校	校舎	RC(一部S)	4(一部1~3)	5,175	S34	1959	60	
		体育館	S	2	812	S48	1973	46	
		プール施設	RC	1	35	S54	1979	40	
	第三小学校	校舎	RC	4(一部3)	5,674	S38	1963	56	
		体育館	S	2	816	S48	1973	46	
		プール施設	RC	1	23	S36	1961	58	
	第四小学校	校舎(*1)	RC	4(一部2)	10,064	H22	2010	9	
		体育館(*2)	RC	2	1,675	H22	2010	9	
	第五小学校	校舎(*1)	RC	5(一部1)	11,365	H22	2010	9	
		体育館(*2)	RC	4	2,131	H23	2011	8	
	第六小学校	校舎	RC	4(一部2)	5,473	S46	1971	48	
		体育館	S	2	819	S50	1975	44	
		プール施設	RC	1	88	S46	1971	48	
	第七小学校	校舎	RC	4(一部3)	5,635	S47	1972	47	
		体育館	S	2	809	S50	1975	44	
		プール施設	RC	1	107	S47	1972	47	
	第八小学校	校舎	RC	4	5,564	S51	1976	43	
		体育館	S	2	840	S51	1976	43	
		プール施設	RC	1	107	S51	1976	43	
	第九小学校	校舎	RC	4	3,601	S57	1982	37	
		体育館	S	2	940	S57	1982	37	
		プール施設	RC	1	41	S57	1982	37	
	第十小学校	校舎(*3)	RC	4	8,085	H12	2000	19	
		体育館	RC	2	1,240	H12	2000	19	
		プール施設	RC	1	159	H12	2000	19	
	中学校	第一中学校	校舎(*4)	RC	4	12,386	H18	2006	13
			体育館	RC	2	1,836	H18	2006	13
第二中学校		校舎	RC(一部S)	3(一部1,2)	6,240	S40	1965	54	
		体育館	S	2	1,328	H4	1992	27	
		武道場	RC	2	903	H4	1992	27	
		プール施設	RC	1	58	S57	1982	37	
第三中学校		校舎	RC	4	6,288	S48	1973	46	
		体育館	S	2(一部1)	1,329	S51	1976	43	
		武道場	RC	2	723	H3	1991	28	
		プール施設	RC	1	10	S54	1979	40	
第四中学校		校舎	RC	4	5,341	S52	1977	42	
		体育館	S	2(一部1)	1,460	S52	1977	42	
		プール施設	RC	1	10	S52	1977	42	
第五中学校		校舎	RC	4	4,191	S53	1978	41	
		体育館	S	2	1,494	S54	1979	40	
	プール施設	RC	1	26	S54	1979	40		

凡例) 構造…RC:鉄筋コンクリート造、S:鉄骨造

注1) 構造、階数、延床面積は、学校施設台帳(令和元(2019)年度)の数値を記載し、延床面積は複数棟の合計、建築年は最も古い棟の建築年とした。

注2) 「プール施設」は、構造をプール槽の構造、その他の項目をプール付属室について示した。

注3) 築年数は、令和元(2019)年を基準とした。

(*1) 自校給食施設・放課後児童クラブを含む

(*2) プール施設を含む

(*3) 放課後児童クラブを含む

(*4) 武道場及びプール施設を含む

表 2-1 対象施設の構造等一覧

(2) 児童生徒数及び学級数の推移

本市の人口推移を図2-2に示します。

本市は、市域面積18.34k㎡、人口14万1,677千人（令和元年12月1日現在）で、東京都心まで20km圏内にあるため都心への通勤の利便性が高く、また、子育て世代の割合が高いことが特徴です。駅周辺での集合住宅の建設や、市街化区域に編入された地域や農地の宅地開発が進んでいるため、本市の人口は微増傾向が続くものと推計されています。推計によると、人口は令和27年度（2045年度）まで増加し、15万人を超えるものと見込まれています。

次に、本市の児童生徒数・学級数の推移と将来推計を図2-3から図2-5に示します。

児童生徒数は昭和54年（1979年）の第2次ベビーブーム期に最も多く、その後減少した時期があったものの、現在は微増傾向の見込みです。学校別では、小学校は、第三小学校、第六小学校、第八小学校及び第十小学校の4校、中学校では、第二中学校及び第四中学校の2校で微増となっています。

一方、学級数の推移ですが、本市の小学校では1学年と2学年で35人学級編成を取り入れており、また、中学校では自由選択制による指定学校以外への通学や、国立・私立中学校への進学等もみられるため、学級数の推移は人口推計や児童生徒数の推計と必ずしも一致せず、小中学校全体では横ばいとなっています。

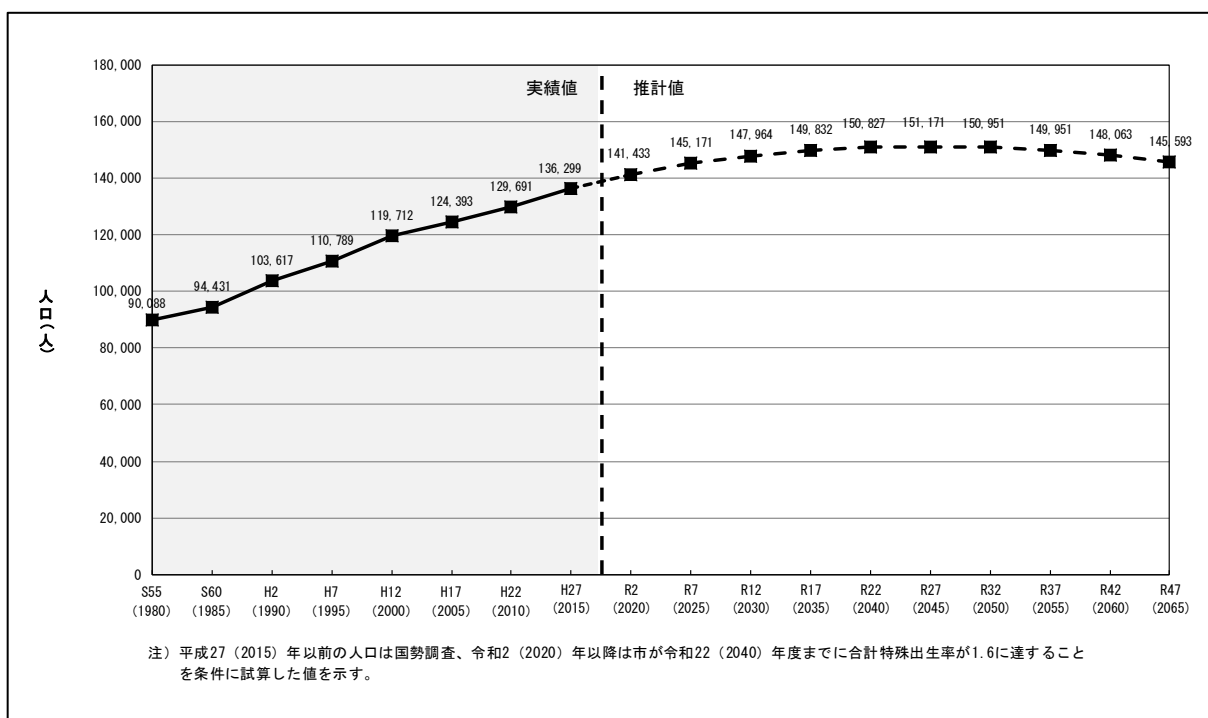


図2-2 朝霞市の人口推移

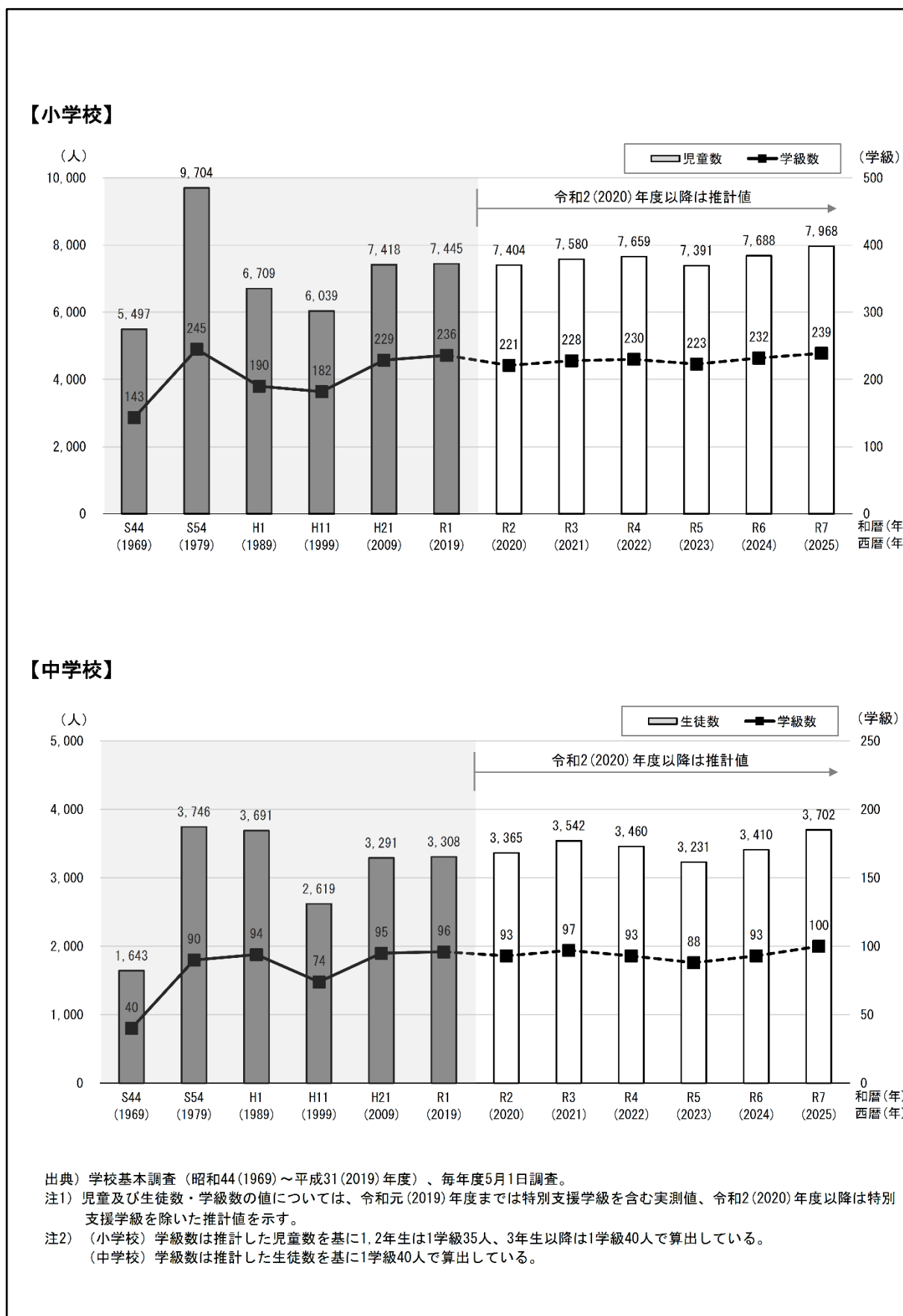


図 2-3 児童生徒数・学級数の推移と将来推計

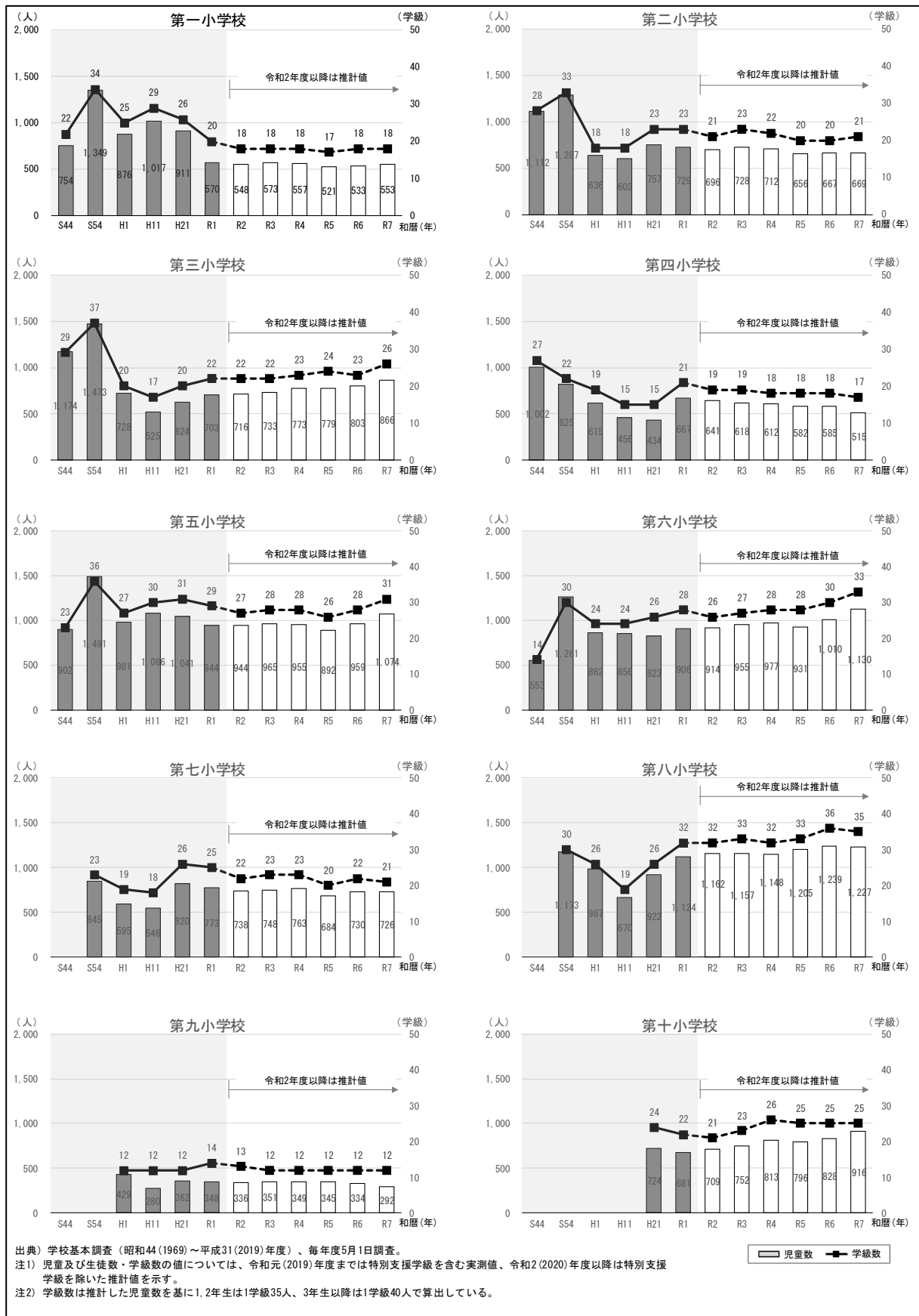


図2-4 児童数・学級数の推移と将来推計(小学校)

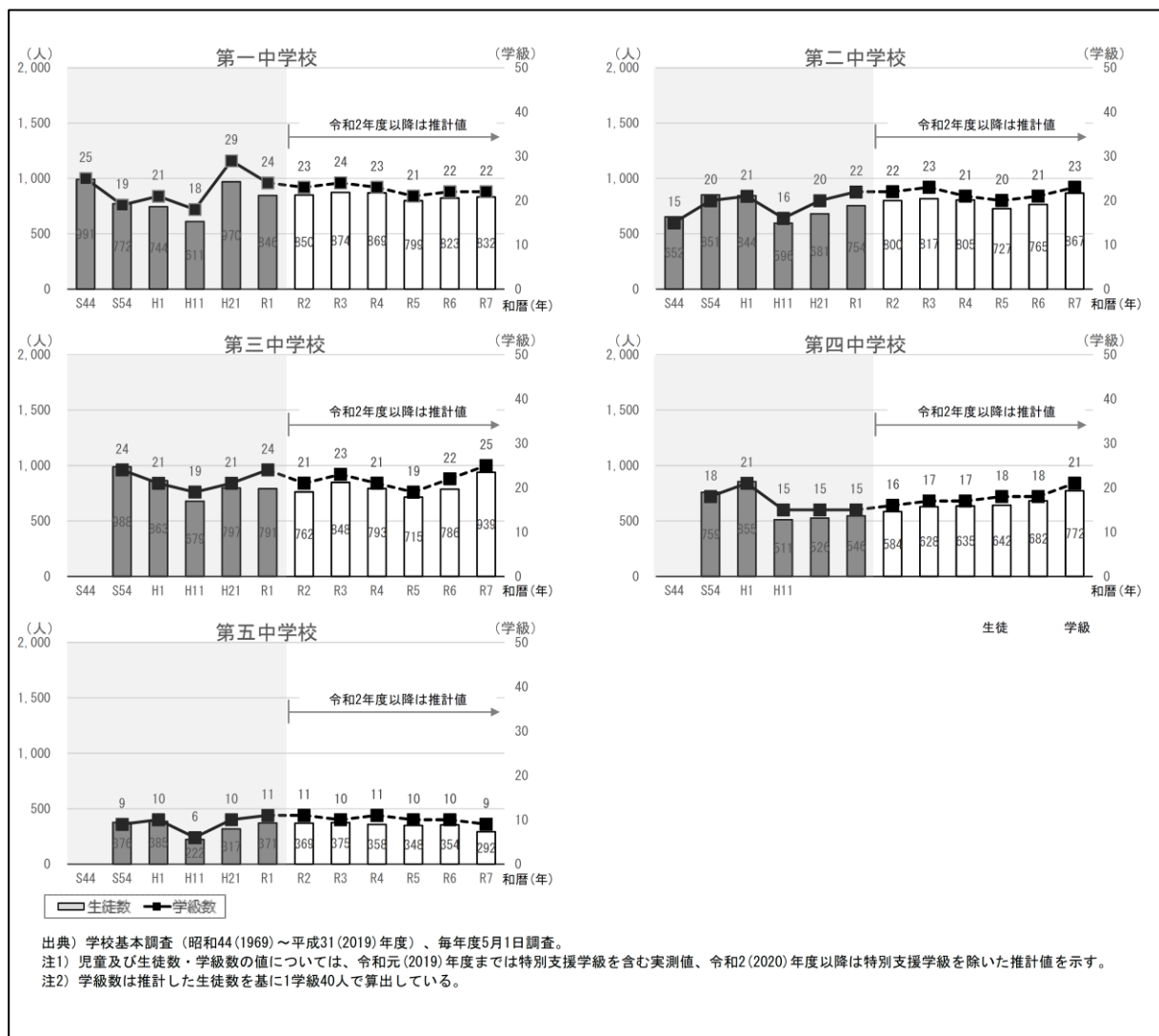


図2-5 生徒数・学級数の推移と将来推計(中学校)

(3) 施設関連経費の把握

ア. 財政状況の傾向

本市の歳入における主要な財源である市税収入は、近年微増で推移しています。しかし、将来の人口推計では、令和12(2030)年頃から生産年齢人口の減少が予測されており、それに伴い市税収入の伸びが見込めないと予想されます。

一方、歳出は扶助費（社会保障費）が増加傾向にあり、歳出全体に占める割合は年々増加しています。市税収入の伸びが見込めない中で、扶助費の増大という厳しい財政運営状況により、今後さらに普通建設事業費などの確保が難しくなると見込まれるため、学校の施設整備にかかるコストについても縮減していく必要があります。

イ. 施設関連経費の推移

過去5年間の学校施設における施設関連経費は、年間約3.64億円～5.79億円で、1年当たりの平均は4.31億円となります。そのうち、光熱水費や施設運営に係る委託費等の経常にかかる費用（施設管理費）は、1年当たりの平均が約3.15億円となり、施設関連経費の約7割を占めています。

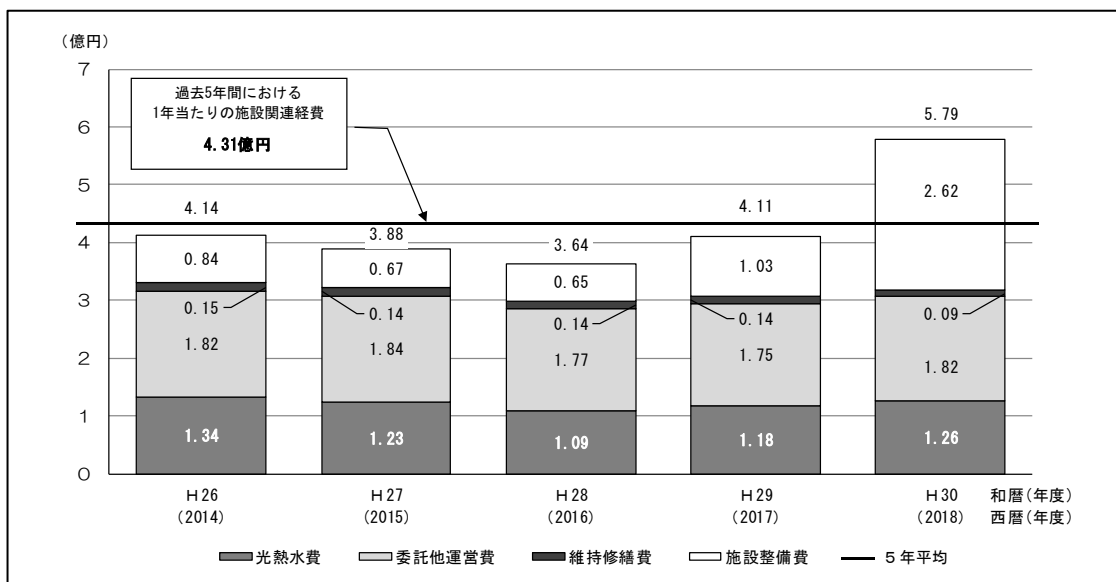


図 2-6 施設関連経費の推移と内訳

年度	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
施設整備費	83,677	66,651	64,577	103,215	261,999
施設管理費	330,074	321,690	299,304	307,772	317,207
維持修繕費	14,637	13,869	13,624	14,416	9,297
委託他運営費	181,881	184,327	176,927	175,139	181,653
光熱水費	133,556	123,494	108,753	118,217	126,257
合計	413,751	388,341	363,881	410,987	579,206

施設関連経費の平均 (5年間)	4.31億円/年
施設管理費の平均 (5年間)	3.15億円/年

表 2-2 施設関連経費の平均(5年間)

2. 学校施設の老朽化状況の実態

改修の方針や時期等を検討するため、学校施設が今後どの程度の期間を使い続けることができるのか、建物の状況を調査しました。調査は学校施設台帳で管理する棟ごとに、構造躯体の健全性調査を行い、長寿命化の可否を判定しました。また、構造躯体以外の屋根・屋上、外壁、内部仕上げ、電気設備・機械設備については、現地調査を行い劣化状況をまとめました。

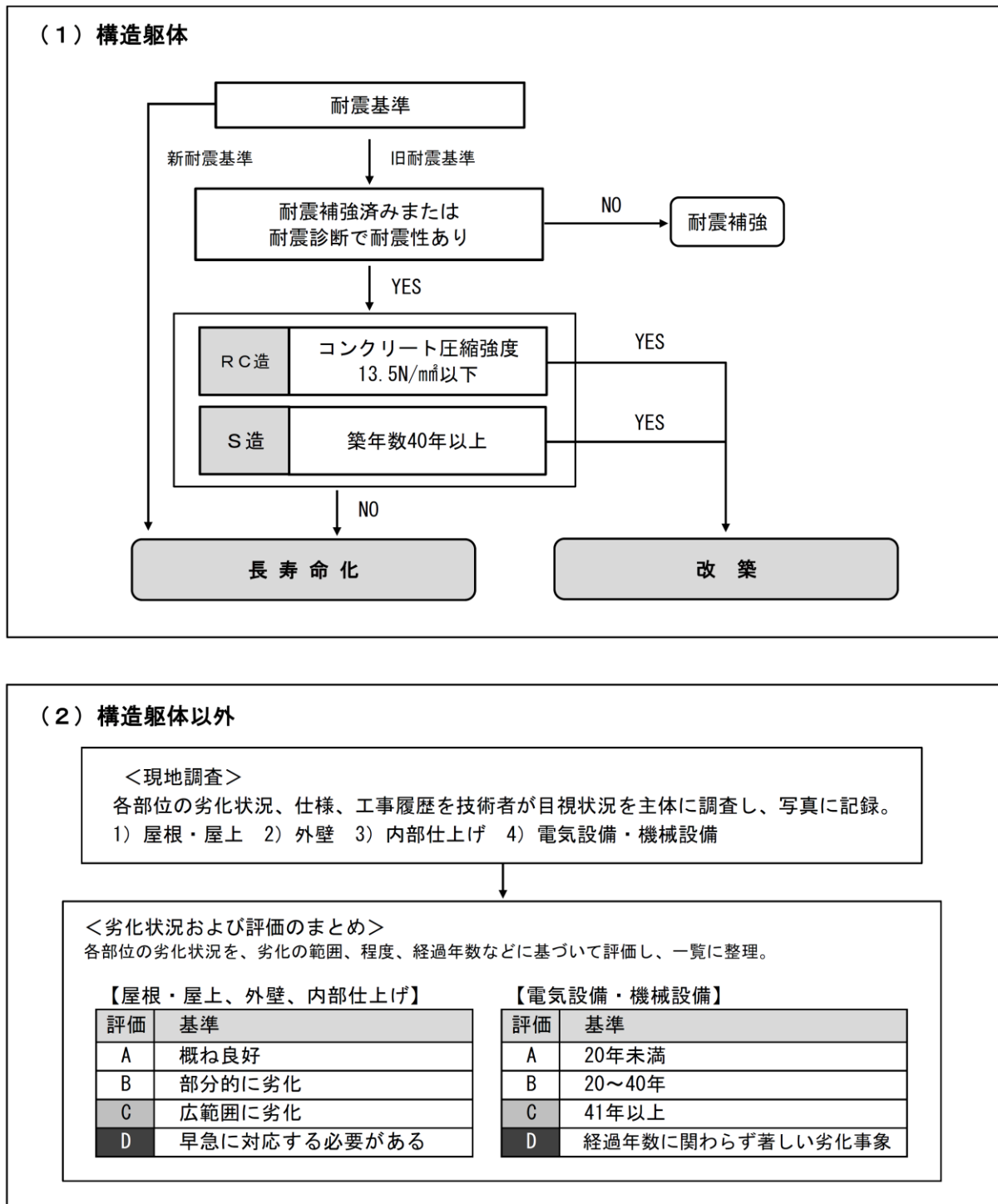


図 2-7 建物の劣化状況調査フロー

(1) 構造躯体の健全性の把握

長期間に渡って建物を使用するためには、構造躯体が健全でなければ必要な安全性を確保できません。基本方針では、過去に実施した耐震診断時の調査データを用いて長寿命化の判定を行います。判定は次の方法によって行い、判定結果を表 2-3 及び表 2-4 に示します。

長寿命化の可否の判定方法

ア. 耐震基準による判定

新耐震基準による学校施設は、「長寿命化」対象施設と判定します。

イ. 構造体の強度等による判定

旧耐震基準による学校施設で耐震診断により耐震性がないと判定された校舎・体育館は、全て耐震補強が完了しています。

これらの施設のうち、鉄筋コンクリート造の建物は、耐震診断時のコンクリート圧縮強度^{※3}により判定し、コンクリート圧縮強度が「13.5N/mm²」を上回るものを「長寿命化」対象施設とします。

また、鉄骨造の建物は、築年数が40年未満のものを「長寿命化」対象施設と判定します。

「長寿命化」対象施設ではない施設は、全て「改築」として区分します。

※3 コンクリートの圧縮強度とは、圧縮力を受けて破壊するときの最大強さを表した値で、コンクリートの品質規定の1つ。

(小学校)

学校名	施設名	棟番号 (*1)	構造	建築年度		築年数 (*2)	耐震安全性			長寿命化判定		
				和暦	西暦		基準	診断	補強	調査年度 (*3)	圧縮強度 (N/mm)	試算上 の区分
第一小学校	校舎	002-0	RC	S36	1961	58	旧	済	済	H8	35.3	長寿命
		003-0	RC	S40	1965	54	旧	済	済	H8	24.2	長寿命
		020-0	RC	S49	1974	45	旧	済	済	H15	17.5	長寿命
		030-0	RC	S55	1980	39	旧	済	-	-	-	長寿命
		029-0	RC	H11	1999	20	新	-	-	-	-	長寿命
	体育館	013-0	S	S47	1972	47	旧	済	済	-	-	改築
第二小学校	校舎	001-0	RC	S34	1959	60	旧	済	済	H9	22.1	長寿命
		002-0	RC	S44	1969	50	旧	済	済	H9	23.8	長寿命
		003-0	RC	S46	1971	48	旧	済	済	H9	20.5	長寿命
		007-0	RC	S46	1971	48	旧	済	済	H9	20.5	長寿命
		021-0	S	H15	2003	16	新	-	-	-	-	長寿命
		023-0	RC	S55	1980	39	旧	済	-	H15	45.0	長寿命
	022-0	RC	H17	2005	14	新	-	-	-	-	長寿命	
体育館	012-0	S	S48	1973	46	旧	済	済	-	-	改築	
第三小学校	校舎	001-1	RC	S38	1963	56	旧	済	済	H10	27.5	長寿命
		001-2	RC	S38	1963	56	旧	済	済	H10	27.5	長寿命
		001-3	RC	S40	1965	54	旧	済	済	H10	22.9	長寿命
		003-0	RC	S43	1968	51	旧	済	済	H10	22.2	長寿命
		004-0	RC	S45	1970	49	旧	済	済	H10	18.8	長寿命
	015-0	RC	S52	1977	42	旧	済	済	H15	33.9	長寿命	
体育館	013-0	S	S48	1973	46	旧	済	済	-	-	改築	
第四小学校	校舎・体育館	020-1	RC	H22	2010	9	新	-	-	-	-	長寿命
		023-0	RC	H22	2010	9	新	-	-	-	-	長寿命
		024-1	RC	H22	2010	9	新	-	-	-	-	長寿命
		024-2	RC	H22	2010	9	新	-	-	-	-	長寿命
第五小学校	校舎	024-0	RC	H22	2010	9	新	-	-	-	-	長寿命
		025-0	RC	H22	2010	9	新	-	-	-	-	長寿命
	体育館	026-0	RC	H23	2011	8	新	-	-	-	-	長寿命
第六小学校	校舎	001-0	RC	S46	1971	48	旧	済	済	H11	18.5	長寿命
		006-0	RC	S47	1972	47	旧	済	済	H11	25.7	長寿命
		007-0	RC	S50	1975	44	旧	済	-	H15	30.8	長寿命
		008-0	RC	S50	1975	44	旧	済	-	H15	23.4	長寿命
	体育館	009-0	S	S50	1975	44	旧	済	済	-	-	改築
第七小学校	校舎	001-0	RC	S47	1972	47	旧	済	済	H15	23.2	長寿命
		007-0	RC	S51	1976	43	旧	済	済	H15	26.1	長寿命
		010-0	RC	S58	1983	36	新	-	-	-	-	長寿命
		012-0	RC	H17	2005	14	新	-	-	-	-	長寿命
	体育館	006-0	S	S50	1975	44	旧	済	済	-	-	改築
第八小学校	校舎	001-1	RC	S51	1976	43	旧	済	済	H15	26.9	長寿命
		001-2	RC	S51	1976	43	旧	済	済	H15	26.7	長寿命
		002-0	RC	S53	1978	41	旧	済	済	H15	28.2	長寿命
	012-0	RC	H20	2008	11	新	-	-	-	-	長寿命	
体育館	006-0	S	S51	1976	43	旧	済	済	-	-	改築	
第九小学校	校舎	001-0	RC	S57	1982	37	新	-	-	-	-	長寿命
	体育館	007-0	S	S57	1982	37	新	-	-	-	-	長寿命
第十小学校	校舎	001-0	RC	H12	2000	19	新	-	-	-	-	長寿命
	体育館	002-0	RC	H12	2000	19	新	-	-	-	-	長寿命

凡例) 構造…RC: 鉄筋コンクリート造、S: 鉄骨造、W: 木造

(*1) 棟番号とは、学校施設台帳にて建物ごとに付している番号である。

(*2) 築年数は、令和元(2019)年を基準とした。

(*3) 調査年度とは耐震診断を実施した年度である。

表 2-3 構造躯体の健全性の評価結果 (小学校)

(中学校)

学校名	施設名	棟番号 (*1)	構造	建築年度		築年数 (*2)	耐震安全性			長寿命化判定		
				和暦	西暦		基準	診断	補強	調査年度 (*3)	圧縮強度 (N/mm)	試算上 の区分
第一中学校	校舎・体育館	026-0	RC	H18	2006	13	新	-	-	-	-	長寿命
		027-1	RC	H18	2006	13	新	-	-	-	-	長寿命
		027-2	RC	H18	2006	13	新	-	-	-	-	長寿命
		027-4	RC	H18	2006	13	新	-	-	-	-	長寿命
		028-0	RC	H18	2006	13	新	-	-	-	-	長寿命
第二中学校	校舎	001-1	RC	S40	1965	54	旧	済	済	H11	22.8	長寿命
		001-2	RC	S41	1966	53	旧	済	済	H11	24.7	長寿命
		001-3	RC	S41	1966	53	旧	済	済	H11	25.9	長寿命
		002-0	RC	S42	1967	52	旧	済	済	H11	25.8	長寿命
		010-0	RC	S48	1973	46	旧	済	済	H15	15.3	長寿命
		011-0	RC	S50	1975	44	旧	済	済	H15	12.8	改築
		012-0	RC	S50	1975	44	旧	済	済	H15	19.0	長寿命
		017-0	S	S58	1983	36	新	-	-	-	-	長寿命
	武道場	022-1	RC	H4	1992	27	新	-	-	-	-	長寿命
体育館	022-2	S	H4	1992	27	新	-	-	-	-	長寿命	
第三中学校	校舎	001-0	RC	S48	1973	46	旧	済	済	H15	13.7	長寿命
		006-1	RC	S51	1976	43	旧	済	済	H15	35.5	長寿命
		006-2	RC	S54	1979	40	旧	済	済	H15	35.5	長寿命
	体育館	005-0	S	S51	1976	43	旧	済	済	-	-	改築
	武道場	009-0	RC	H3	1991	28	新	-	-	-	-	長寿命
第四中学校	校舎	001-1	RC	S52	1977	42	旧	済	済	H15	24.3	長寿命
		001-2	RC	S52	1977	42	旧	済	済	H15	23.5	長寿命
		009-0	RC	S57	1982	37	新	-	-	-	-	長寿命
	体育館	007-0	S	S52	1977	42	旧	済	済	-	-	改築
第五中学校	校舎	001-1	RC	S53	1978	41	旧	済	済	H15	30.1	長寿命
		001-2	RC	S54	1979	40	旧	済	済	H15	32.1	長寿命
	体育館	002-0	S	S54	1979	40	旧	済	済	-	-	改築

凡例) 構造…RC: 鉄筋コンクリート造、S: 鉄骨造、W: 木造

(*1) 棟番号とは、学校施設台帳にて建物ごとに付している番号である。

(*2) 築年数は、令和元(2019)年を基準とした。

(*3) 調査年度とは耐震診断を実施した年度である。

表 2-4 構造躯体の健全性の評価結果 (中学校)

(2) 構造躯体以外の劣化状況の評価

学校施設の屋根・屋上、外壁、内部仕上げ、電気設備・機械設備の各部位ごとの劣化状況の調査を、目視調査を主体として行いました。調査に当たっては、目視では確認できない学校施設の日常的な不具合について事前にヒアリングを行ったほか、学期ごとに行っている点検の内容を確認の上、調査を実施しました。

劣化状況の評価は、目視調査によるほか、過去の改修履歴及び改修からの経過年数を加味して総合的に行いました。

ア. 各部位の主な調査内容

屋根・屋上

- ・最上階の天井に雨漏りがないか。雨漏りが原因と思われるシミ、カビがないか。
- ・屋上防水に、膨れ、剥がれ、破れ、穴開きがないか。
- ・金属屋根に、錆、損傷、腐食がないか。

外壁

- ・コンクリートが剥落し、鉄筋が露出している箇所はないか。
- ・室内側に雨漏りと思われるシミ垂れ、塗装の剥がれがないか。
- ・外装材（モルタル・タイル・吹き付け材などの仕上げ材）に、亀裂、浮き、剥離、ひび割れ及び破損がないか。
- ・建具枠、蝶番などの腐食、変形、ぐらつきがないか。
- ・窓枠と外壁との隙間に施されているシーリング材に硬化、切れ、剥がれがないか。

内部仕上げ

- ・床、壁、天井にコンクリートの亀裂、ボード類の浮き、損傷がないか。
- ・天井ボードの落下や床シートの剥がれなどにより安全性が損なわれているところがないか。

電気設備・機械設備

- ・機器や架台に錆、損傷、腐食がないか。
- ・漏水、漏油がないか。
- ・使用水に赤水、異臭がないか。
- ・機器から異音はしていないか。

イ. 評価方法

屋根・屋上、外壁、内部仕上げは、目視調査を行い、また、電気設備・機械設備は、目視だけでは劣化の状況が判断できないため、設置や改修してからの経過年数を用いて、それぞれ表2-5の評価基準に基づき評価しました。

評価は、A、B、C、Dの4段階で行い、部位の評価点とコスト配分から部位ごとに健全度を算定しました（図2-8）。

【屋根・屋上、外壁、内部仕上げ評価】

評価	目視による評価基準
A	概ね良好
B	部分的に劣化
C	広範囲に劣化
D	早急に対応する必要がある

【電気設備・機械設備の評価】

評価	経過年数による評価基準
A	20年未満
B	20～40年
C	41年以上
D	経過年数に関わらず著しい劣化事象

表 2-5 各部位の評価基準

①部位の評価点

	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

②部位のコスト配分

部位	コスト配分
1 屋根・屋上	5.1
2 外壁	17.2
3 内部仕上げ	22.4
4 電気設備	8
5 機械設備	7.3
計	60.0

③健全度

総和（部位の評価点×部位のコスト配分）÷ 60

※100点満点にするためにコスト配分の合計値で割っている。
 ※健全度は、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示す。

<健全度計算例>

	評価	→	評価点	×	配分	=	
1	屋根・屋上	C	40	×	5.1	=	204
2	外壁	D	10	×	17.2	=	172
3	内部仕上げ	B	75	×	22.4	=	1,680
4	電気設備	A	100	×	8	=	800
5	機械設備	C	40	×	7.3	=	292
計							3,148
÷							60
健全度							52

図 2-8 部位の評価に基づく健全度の算出方法

ウ. 劣化状況の評価

各学校施設における構造躯体以外の各部位の評価及び健全度は、表2-6及び表2-7のとおりです。屋根・屋上、外壁、内部仕上げは、広範囲に劣化（C評価）が多いことが確認されました。また、電気設備・機械設備は、設置や改修してからの経過年数が20年から40年（B評価）のものが多いことがわかりました。

(小学校)

学校名	施設名	棟番号 (*1)	構造	建築年度		築年数 (*2)	屋根・ 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全度
				和暦	西暦							
第一小学校	校舎	002-0	RC	S36	1961	58	C	D	C	B	B	40
		003-0	RC	S40	1965	54	D	D	D	B	B	27
		020-0	RC	S49	1974	45	D	D	D	B	B	27
		030-0	RC	S55	1980	39	C	A	A	-	B	91
	029-0	RC	H11	1999	20	C	C	C	B	B	49	
	体育館	013-0	S	S47	1972	47	C	C	C	B	B	49
第二小学校	校舎	001-0	RC	S34	1959	60	C	C	C	B	B	49
		002-0	RC	S44	1969	50	D	C	D	B	B	35
		003-0	RC	S46	1971	48	C	D	C	B	C	36
		007-0	RC	S46	1971	48	D	D	C	B	B	38
		021-0	S	H15	2003	16	B	C	C	B	-	49
		023-0	RC	S55	1980	39	C	C	C	B	B	49
	022-0	RC	H17	2005	14	C	C	B	B	B	62	
	体育館	012-0	S	S48	1973	46	B	C	C	B	B	52
第三小学校	校舎	001-1	RC	S38	1963	56	D	C	D	B	B	35
		001-2	RC	S38	1963	56	C	C	C	B	B	49
		001-3	RC	S40	1965	54	C	C	B	B	B	62
		003-0	RC	S43	1968	51	C	B	C	B	B	59
		004-0	RC	S45	1970	49	C	B	C	B	B	59
		015-0	RC	S52	1977	42	D	C	C	C	C	37
	013-0	S	S48	1973	46	C	C	C	B	B	49	
	体育館	013-0	S	S48	1973	46	C	C	C	B	B	49
第四小学校	校舎・体育館	020-1	RC	H22	2010	9	C	C	C	A	A	55
		023-0	RC	H22	2010	9	-	C	C	A	A	57
		024-1	RC	H22	2010	9	C	C	A	A	A	78
		024-2	RC	H22	2010	9	C	B	C	B	C	55
第五小学校	校舎	024-0	RC	H22	2010	9	C	C	C	A	A	55
		025-0	RC	H22	2010	9	-	C	A	A	A	81
	体育館	026-0	RC	H23	2011	8	C	C	C	A	A	55
第六小学校	校舎	001-0	RC	S46	1971	48	C	C	C	B	C	45
		006-0	RC	S47	1972	47	D	C	C	B	C	42
		007-0	RC	S50	1975	44	C	D	C	B	C	36
		008-0	RC	S50	1975	44	C	C	C	B	B	49
	体育館	009-0	S	S50	1975	44	C	C	C	B	C	45
第七小学校	校舎	001-0	RC	S47	1972	47	D	C	C	B	B	46
		007-0	RC	S51	1976	43	C	C	D	C	B	33
		010-0	RC	S58	1983	36	C	C	C	B	B	49
		012-0	RC	H17	2005	14	C	C	C	C	B	44
	体育館	006-0	S	S50	1975	44	C	C	C	A	A	55
第八小学校	校舎	001-1	RC	S51	1976	43	C	C	D	B	C	34
		001-2	RC	S51	1976	43	D	C	C	B	C	42
		002-0	RC	S53	1978	41	C	C	C	B	B	49
		012-0	RC	H20	2008	11	C	C	C	B	B	49
	体育館	006-0	S	S51	1976	43	C	C	C	B	A	52
第九小学校	校舎	001-0	RC	S57	1982	37	D	D	D	B	B	27
	体育館	007-0	S	S57	1982	37	C	C	C	B	B	49
第十小学校	校舎	001-0	RC	H12	2000	19	D	C	C	B	C	42
	体育館	002-0	RC	H12	2000	19	D	C	C	B	C	42

凡例) 構造…RC: 鉄筋コンクリート造、S: 鉄骨造、W: 木造

(*1) 棟番号とは、学校施設台帳にて建物ごとに付している番号である。

(*2) 築年数は、令和元(2019)年を基準とした。

表 2-6 構造躯体以外の劣化状況の評価結果 (小学校)

(中学校)

学校名	施設名	棟番号 (*1)	構造	建築年度		築年数 (*2)	屋根・ 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全度
				和暦	西暦							
第一中学校	校舎・体育館 ・武道場	026-0	RC	H18	2006	13	C	B	B	A	B	75
		027-1	RC	H18	2006	13	B	B	A	A	B	88
		027-2	RC	H18	2006	13	B	B	B	A	A	81
		027-4	RC	H18	2006	13	B	B	A	A	-	89
		028-0	RC	H18	2006	13	C	A	B	A	B	83
第二中学校	校舎	001-1	RC	S40	1965	54	D	D	D	B	C	22
		001-2	RC	S41	1966	53	C	D	B	B	B	53
		001-3	RC	S41	1966	53	B	D	C	B	-	39
		002-0	RC	S42	1967	52	D	D	D	B	B	27
		010-0	RC	S48	1973	46	C	C	C	C	B	44
		011-0	RC	S50	1975	44	D	C	B	B	B	59
		012-0	RC	S50	1975	44	D	C	C	B	C	42
		017-0	S	S58	1983	36	C	A	B	B	-	80
	武道場	022-1	RC	H4	1992	27	D	C	C	B	B	46
	体育館	022-2	S	H4	1992	27	D	D	C	C	B	33
第三中学校	校舎	001-0	RC	S48	1973	46	C	D	C	B	B	40
		006-1	RC	S51	1976	43	C	D	D	B	B	29
		006-2	RC	S54	1979	40	C	C	C	C	B	44
	体育館	005-0	S	S51	1976	43	B	C	D	B	B	41
	武道場	009-0	RC	H3	1991	28	D	D	C	B	B	38
第四中学校	校舎	001-1	RC	S52	1977	42	C	C	C	B	C	45
		001-2	RC	S52	1977	42	C	C	D	C	C	29
		009-0	RC	S57	1982	37	C	D	C	B	C	36
	体育館	007-0	S	S52	1977	42	C	C	D	B	B	38
第五中学校	校舎	001-1	RC	S53	1978	41	C	D	C	B	B	40
		001-2	RC	S54	1979	40	C	D	C	B	B	40
	体育館	002-0	S	S54	1979	40	C	C	D	B	C	34

凡例) 構造…RC: 鉄筋コンクリート造、S: 鉄骨造、W: 木造

(*1) 棟番号とは、学校施設台帳にて建物ごとに付している番号である。

(*2) 築年数は、令和元(2019)年を基準とした。

表 2-7 構造躯体以外の劣化状況の評価結果 (中学校)

評価結果（目視調査による部位別劣化評価）

※A, B, C, Dは劣化状況評価を示す。

		屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
第一小学校	校舎	C ・屋上塗膜防水劣化	D ・北側外壁 塗装の劣化、浮き	C ・階段屋上階 床シート浮き
	棟番号 002-0 (築58年)			
	校舎	D ・屋上手摺 塗装劣化、発錆	D ・PH外壁 塗装劣化、ひび割れ	D ・1～3階 階段室一便所 防火扉の撤去
	棟番号 003-0 (築54年)			
	校舎	D ・塔屋屋上塗膜防水劣化、剥れ	D ・屋上煙突 躯体の割れ	D ・各所 天井漏水跡
棟番号 020-0 (築45年)				
校舎	C ・屋上ドレン廻りに土溜り	C ・北側外壁 塗装ひび割れ 縦樋塗装剥れ	C ・階段 床点字鋸に外れ	
棟番号 029-0 (築20年)				
体育館	C ・金属屋根塗装劣化 ・軒樋に植生	C ・鉄骨柱 塗装劣化、発錆	C ・屋根下地鉄骨塗装劣化、剥れ	
棟番号 013-0 (築47年)				

評価結果（目視調査による部位別劣化評価）

※A, B, C, Dは劣化状況評価を示す。

		屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
第二小学校	校舎	C ・屋上塗膜防水劣化、 勾配不良による水溜り 	D ・昇降口上部庇裏 鉄筋爆裂露出 	C ・各所 天井漏水跡 
	校舎	D ・鋼製手摺塗装劣化、著しい発錆 	C ・屋上庇、塗装劣化、浮き 	D ・階段 防火扉作動不良 
	校舎	C ・屋上塗膜防水劣化 ・鋼製手摺塗装劣化、発錆 	C ・昇降口庇 漏水、塗装劣化、剥れ 	C ・東側階段3階 壁にひび割れ 塗装剥がれ 
	校舎	C ・屋上塗装劣化 	C ・北側サッシ ガラス破損 	B ・図書室 スチール扉 枠塗装剥がれ 
	体育館	B ・金属屋根塗装劣化 	C ・サッシ受け鉄骨 塗装劣化、発錆 	C ・天井鉄骨の塗装の劣化、発錆 



評価結果（目視調査による部位別劣化評価）

※A, B, C, Dは劣化状況評価を示す。

		屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
第三小学校	校舎	D	C	D
	棟番号 001-1 (築56年)	・屋上(便所部分) 排水不良による全面水溜り 	・北西側2階パラペット部分 塗装の劣化、浮き 	・3階第一音楽室 天井、壁 漏水跡及び天井の破損 
	校舎	C	B	C
	棟番号 003-0 (築51年)	・屋上パラペット ひび割れ 	・外壁概ね良好 ・南東側庇 汚れ及びひび割れ 	・教室床仕上の劣化 
	校舎	C	B	C
棟番号 004-0 (築49年)	・PH屋上 塗膜防劣化 チョーキング 	・北東側外壁 梁型部分に汚れ 	・3階～屋上 階段 天井に漏水跡 	
校舎	D	C	C	
棟番号 015-0 (築42年)	・ドレン廻り 塗膜防水に亀裂 	・北西側庇 漏水による塗装剥れ 	・1階玄関天井に漏水跡 	
体育館	C	C	B	
棟番号 013-0 (築46年)	・北東側 軒樋に破損、漏水 	・ポーチ庇 塗装劣化、発錆 	・階段 長尺シートに剥れ 	

評価結果（目視調査による部位別劣化評価）

※A, B, C, Dは劣化状況評価を示す。

		屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
第四小学校	校舎 棟番号 020-1 (築9年)	C	C	C
		<ul style="list-style-type: none"> ・屋上ドレン廻り、伸縮目地 泥溜り及び植生 	<ul style="list-style-type: none"> ・中庭バルコニー裏 ひび割れ及び白華 	<ul style="list-style-type: none"> ・PH階 EVホール天井 漏水跡及びカビの発生 
	校舎 棟番号 024-1 024-2 (築9年)	C	C	C
		<ul style="list-style-type: none"> ・屋上ハト小屋(設備取出口) 天端塗装の劣化、剥れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・北側外壁他 多数のひび割れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・3階廊下(図工室前) 床、天井に漏水跡 
	校舎 棟番号 024-1 024-2 (築9年)	C	C	A
		<ul style="list-style-type: none"> ・屋上ハト小屋(設備取出口) ひび割れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・南側外壁 壁モルタル仕上にひび割れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・床仕上げ 良好な状態 
体育館 棟番号 023-0 (築9年)		C	C	
			<ul style="list-style-type: none"> ・南側外壁 多数のひび割れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・便所前廊下 壁に多数のカビ発生 

評価結果（目視調査による部位別劣化評価）

※A, B, C, Dは劣化状況評価を示す。

		屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
第五小学校	校舎 棟番号 024-0 (築9年)	C ・排水溝、伸縮目地 植生多数 	C ・北西側底 ひび割れ及び白華 	C ・1階廊下(EVホール横) 天井に漏水跡 
		C ・防水押えコンクリート 表面劣化 	C ・南東側4階バルコニー他 ひび割れ及び塗装劣化 	C ・教室床仕上の劣化 
	体育館 棟番号 026-0 (築8年)	C ・4階防水立上り部分に膨れ 表面劣化 	B ・南西側 汚れあるが、概ね良好 	C ・アリーナ 木製壁に剥れ 
		C ・4階庇 上部塗装の劣化 	C ・4階外壁 塗装の剥れ 	C ・3階大会議室 壁クロス汚れ及び剥れ 






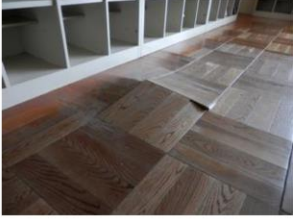









評価結果（目視調査による部位別劣化評価）

※A, B, C, Dは劣化状況評価を示す。

		屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
第六小学校	校舎	C ・塗膜防水の劣化 	C ・南東側 パルコニー裏 塗装の膨れ 	C ・階段4階 壁塗装膨れ 
	校舎	D ・PH屋上 パラペット部 塗膜防水の劣化、剥れ 	C ・南東側 パルコニー 手摺の塗装の劣化、発錆 	C ・3階男子便所 床長尺シート浮き 
	校舎	C ・塗膜防水劣化 	C ・外部階段裏 塗装の劣化、剥れ 	C ・1階家庭科室 壁ひび割れ、塗装剥れ 
	校舎	C ・バルコニー庇 塗膜防水に劣化 	C ・北東側外壁 汚れ及び塗装の劣化 	C ・4階廊下壁 ひび割れ及び塗装剥れ 
	体育館	C ・金属屋根塗装劣化 ・ケラバ金物塗装の劣化、発錆 	C ・北東側外壁 塗装の劣化、汚れ 	C ・放送室 漏水跡及びカビの発生 







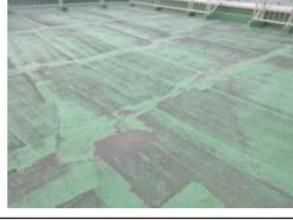








評価結果（目視調査による部位別劣化評価）

※A, B, C, Dは劣化状況評価を示す。

		屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
第七小学校	校舎	D ・屋上塗膜防水劣化、剥れ	C ・北西側外壁塗装の劣化、汚れ	C ・4階廊下床塗装劣化
	棟番号 001-0 (築47年)			
	校舎	C ・屋上ドレン廻りに植生	C ・北西側サッシ下 モルタル水切り破損	D ・1階玄関床フローリング浮上り
	棟番号 007-0 (築43年)			
	校舎	C ・4階バルコニー ドレン詰り	C ・北西側外壁 汚れ、塗装劣化、剥れ	C ・3階教室(2-4) 腰壁塗装劣化、剥れ
棟番号 010-0 (築36年)				
校舎	C ・パラペット 塗装劣化及びひび割れ	C ・北東側サッシ廻り シーリングに汚れ及び劣化	C ・特別教室 床塗装劣化	
棟番号 012-0 (築14年)				
体育館	C ・金属屋根塗装劣化 ・軒樋に泥溜り、植生	C ・鉄骨柱 塗装劣化、発錆	C ・屋根下地鉄骨塗装劣化、剥れ	
棟番号 006-0 (築44年)				

評価結果（目視調査による部位別劣化評価）

※A, B, C, Dは劣化状況評価を示す。

		屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
第八小学校	校舎	C ・屋上塗膜防水劣化 	C ・西側外壁 多数の塗装膨れ 	D ・階段4階防火扉 順位調整器 テープ固定（作動不良?） 
	校舎	D ・PH屋上パラペット部 塗装劣化、剥れ 	C ・東側バルコニー一部 塗装劣化、剥れ 	C ・4階廊下 EXP. J 廻り天井破損 
	校舎	C ・屋上 塗膜防水劣化 	C ・北東側 外壁塗装劣化 	C ・4階廊下 壁塗装劣化、剥れ 
	校舎	C ・屋上 土溜り、植生 	C ・東側2階 梁型にひび割れ 	C ・4階教室(6-1) 壁付換気口破損 
	体育館	C ・金属屋根塗装劣化 ・軒樋に植生 	C ・鉄骨柱 塗装劣化、発錆 	C ・屋根下地鉄骨塗装劣化、剥れ 




評価結果（目視調査による部位別劣化評価）

※A, B, C, Dは劣化状況評価を示す。

		屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
第九小学校	校舎 棟番号 001-0 (築37年)	D	C	C
		・屋上パラペットアゴ下 コンクリート破損、鉄筋露出 	・屋上煙突 躯体の割れ 塗装劣化、剥れ 	・1、3階男子便所 壁塗装劣化、剥れ 
		D	D	D
		・西側昇降口庇 下地モルタルに割れ 	・屋上PH庇 コンクリート劣化、破損 	・1階休憩室 床下地劣化 (踏抜け要注意) 
	体育館 棟番号 007-0 (築37年)	C	C	C
		・金属屋根塗装劣化、発錆 	・玄関庇 塗装劣化、発錆 	・女子更衣室床 長尺シート剥れ 
C		C	C	
	・軒樋 塗装劣化、剥れ 	・玄関庇 軒天井破損 	・男子更衣室 壁ひび割れ 	

評価結果（目視調査による部位別劣化評価）

※A, B, C, Dは劣化状況評価を示す。

		屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
第十小学校	校舎 棟番号 001-0 (築19年)	C	C	C
		・塔屋屋上 シート防水浮き 	・4階 南西側外壁 塗装劣化、汚れ 	・4階配膳室 壁に台車による損傷 
		D	C	C
	・屋上ドレン廻り側溝部分 防水モルタル剥れ 	・昇降口庇(バルコニー裏) ひび割れ及び白華 	・3階廊下 床フローリング割れ 	
	体育館 棟番号 002-0 (築19年)	D	C	C
		・金属屋根端部 防水シート劣化、破れ 	・南東側 庇 発錆、塗装劣化、汚れ 	・ホール床 塗装劣化 
	C	C	C	
・軒先金物 雨水廻り込みによる 汚れ及び発錆 	・スチール扉 塗装劣化 	・ホール入口扉 シーリング不良 		

評価結果（目視調査による部位別劣化評価）

※A, B, C, Dは劣化状況評価を示す。

		屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
第一中学校	校舎	C ・屋上庭園 目地部より植生	B ・階段 汚垂れ	B ・職員室 天井漏水跡
	棟番号 026-0 (築13年)			
	校舎	B ・屋上塗膜防水 部分的にひび割れ発生	B ・概ね良好	A ・概ね良好
	棟番号 027-1 (築13年)			
体育館	C ・屋上塗膜防水 トップコートの剥れ	A ・概ね良好	B ・天井鉄骨部材 塗装劣化、発錆	
棟番号 028-0 (築13年)				

評価結果（目視調査による部位別劣化評価）

※A, B, C, Dは劣化状況評価を示す。

		屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
第二中学校	校舎	D ・屋上換気塔 躯体ひび割れ	D ・南側外壁 タイル剥れ	D ・塔屋天井 ひび割れ鉄筋露出
	棟番号 001-1 (築54年)			
	校舎	D ・塔屋パラペット 塗膜膜防水剥り	D ・外壁 コンクリート欠け	D ・2階廊下 天井剥れ
	棟番号 002-0 (築52年)			
	校舎	C ・屋上 塗膜防水の劣化	C ・庇 塗装剥れ	C ・3階トイレ前手洗い タイル欠け
棟番号 010-0 (築46年)				
校舎	D ・庇塗装剥がれ	C ・外壁塗装剥れ	C ・天井 雨漏り跡	
棟番号 012-0 (築44年)				
体育館	D ・金属屋根塗装の激しい劣化	C ・基礎廻り 鉄筋露出	C ・天井 雨漏り跡	
棟番号 022-1、2 (築27年)				












評価結果（目視調査による部位別劣化評価）

※A, B, C, Dは劣化状況評価を示す。

		屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
第三中学校	校舎	C ・ドレン廻り 土溜り、植生	D ・バルコニー上げ裏 鉄筋露出	C ・1-3組教室内壁
	棟番号 001-0 (築46年)			
	校舎	C ・屋上塗膜防水 経年による劣化	D ・昇降口庇 仕上材の穴あき	D ・1階トイレ天井 仕上げ材の剥がれ
	棟番号 006-1,2 (築43,40年)			
武道場	D ・陸屋根 伸縮目地より植生	D ・庇 塗装剥がれ	B ・内壁 ひび割れ	
棟番号 009-0 (築28年)				
体育館	B ・軒樋排水口に若干土溜り ・屋根 鋼製板塗装は概ね良好	C ・鉛直ブレース 発錆	D ・壁 仕上げ材剥がれ	
棟番号 005-0 (築43年)				

評価結果（目視調査による部位別劣化評価）

※A, B, C, Dは劣化状況評価を示す。

		屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
第四中学校	校舎	C ・屋上塗膜防水劣化 	C ・西面 仕上材剥離下地露出 	C ・塔屋 壁ひび割れ 
	校舎	C ・屋上塗膜防水劣化 	C ・西面 ひび割れ、さび汁 	D ・被服準備室 壁ひび割れ 
	校舎	C ・屋上塗膜防水劣化 	D ・屋根鼻先 コンクリート剥離 	C ・2階 教材室 開口部ひび割れ 
	体育館	C ・金属屋根塗装劣化 ・軒樋ドレン部に土溜り 	C ・軒先金物 塗装の劣化、発錆 	D ・玄関屋根 塗料の劣化 

評価結果（目視調査による部位別劣化評価）

※A, B, C, Dは劣化状況評価を示す。

		屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
第五中学校	校舎	C	D	C
	棟番号 001-1 (築41年)	<ul style="list-style-type: none"> ・塔屋屋上塗膜防水劣化 	<ul style="list-style-type: none"> ・南東側 塗装剥がれ 	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的室 壁仕上げ剥れ 
	校舎	C	D	C
	棟番号 001-2 (築40年)	<ul style="list-style-type: none"> ・屋上塔屋 塗布防水のはがれ、下地露出 	<ul style="list-style-type: none"> ・南東側手摺壁 広範囲に塗装の 膨らみがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い壁 ひび割れ 
体育館	C	C	C	
棟番号 002-0 (築40年)	<ul style="list-style-type: none"> ・金属屋根塗装劣化 	<ul style="list-style-type: none"> ・庇軒先 発錆 ・天井 塗装剥れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根下地鉄骨塗装劣化、剥れ 	

(3) 学校施設の老朽化状況の総評

構造躯体の健全性評価

第二中学校の校舎棟（棟番号 011-0）の耐震診断時のコンクリート圧縮強度は、長寿命化対象施設の判定値である 13.5N/mm²を下回るため「改築」、これ以外の全ての校舎は「長寿命化」対象施設として判定されました。

また、屋内運動場は、築 40 年を経過する施設（「改築」）が多いことがわかりました。

構造躯体以外の健全性評価

構造躯体以外（屋根・屋上、外壁、内部仕上げ、電気設備、機械設備）の劣化状況については、屋根・屋上、外壁及び内部仕上げでC評価（広範囲に劣化）が多く、早期に計画的な改修が必要な状況です。また、電気設備、機械設備では、設置や改修からの経過年数が 20 年から 40 年のものが多く、設備ごとの標準耐用年数を踏まえて改修・更新周期を検討し、計画的に改修・更新を行うことが必要です。

総 評

今回の調査の結果、屋根・屋上、外壁、内部仕上げについては、広範囲に劣化がみられ、安全面や機能面において早急に対応が必要な部位も確認されました。

特に、屋上や外壁の劣化は構造躯体に直接影響を及ぼし、学校施設の劣化の対処は不具合が現れてから行うことが多く、事後保全的で部分的な改修にとどまっている状況です。

今後は、計画的に改修を行うことが必要です。



第2章では、学校施設の現状を把握するとともに、学校施設の老朽化の状況について調査を行い評価しました。それを踏まえ、本章では学校施設の目指すべき姿を定め、それを実現するための課題を整理します。

1. 学校施設の目指すべき姿

本市では、「朝霞市教育振興基本計画（平成25年3月）」において、「21世紀を心豊かに生きる力をはぐくむ 朝霞の教育」を基本理念として掲げ、児童生徒の安心・安全の確保、快適な教育環境の整備充実を図ることに加え、学校・家庭・地域が連携し、地域とともにある学校づくりを進めていくこととしています。

基本方針では、3つの目指すべき姿を設定し、学校施設整備を進めていきます。

安全で快適な空間であること

児童生徒の学習及び生活の場として、安心して学校生活が過ごせるよう、学校施設の安全性や防犯性に配慮した施設整備を進めます。また、教職員の働く場として良好な環境を確保するとともに、学校を利用する誰もが使いやすい施設整備を進めます。

豊かで健やかに育つ環境であること

近年の教育内容・教育方法の変化に対応できる柔軟な環境整備に取り組み、質の高い教育を支える教育環境の整備充実を図ります。

地域の拠点として活用されること

地域のコミュニティ、生涯学習の場として活用されるよう、地域に開かれた施設整備や、防災拠点としての機能強化、将来的な施設の複合化や共有化等に配慮します。

2. 学校施設の課題

学校施設の目指すべき姿を実現するための課題を、次のように整理します。

安全で快適な空間であること

〔課題1〕老朽化への対応

校舎や体育館の屋根・屋上や外壁の劣化は、構造躯体そのものの劣化につながり、雨漏りや外壁仕上げ材の剥落等、施設の安全面に大きな影響を及ぼします。

学校施設の長寿命化を見据えた計画的な大規模改修の実施はもとより、施設の安全性を確保するために劣化が著しい部位の改修が早期に必要です。

〔課題2〕環境向上に向けた取組

児童生徒や学校関係者だけではなく、地域住民など学校を利用する誰もが使いやすい施設の整備を進めることが必要です。

▶ バリアフリー化

乗用エレベーターや多目的トイレの整備、通路の段差解消等、施設全体でのバリアフリー化を図ることが必要です。

▶ 内部仕上げのリニューアル

床や壁、天井等の内部仕上げは、全体的な改修が行われておらず、汚れが目立ち暗く劣化が進んでいるため、木質化等により明るく快適な環境の整備を進めることが必要です。

豊かで健やかに育つ環境であること

〔課題3〕多様な学習内容・学習形態への対応

ICT環境の整備充実など情報化への対応、少人数指導やインクルーシブ教育等、多様化する学習形態に柔軟に対応できる学習環境を整えることが必要です。

地域の拠点として活用されること

〔課題4〕地域の拠点としての施設整備

地域コミュニティなど様々な活動の場として、また、災害時の防災拠点として、地域のニーズに対応できる施設整備を図ることが必要です。

